

<今回>315回目 2022年4月8(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p393、5行目そして より

<前回>314回目(22-3-25)出席者 7名

資料(22-03-25-1)前回のまとめ(清水)

一2)持統吉野行幸批判(清水)

A 報告 やっと春らしくなってきた。桜も開花宣言がそこかしこで起こっている。今年の桜はどこもよく咲いているらしい。

B 資料 持統紀に記載された吉野への行幸記事について、古田説では8年間31回の行幸は季節に関係なく、督戦のため(孝徳の死から)白村江の敗戦の直前まで続いている。持統8年丁亥の月がないことから、34年遡らせて、実際の34年引き下げて持統紀に転載したという仮説を立てた。大宰府から吉野ケ里まで一直線の軍用道路と思われる遺構が出ている。それに対して高山氏から34年遡上説は唯1点しか示されていないから論拠が不十分、有明海は半島に出撃するのは回り道で北部九州から玄界灘を直接渡海する方が自然であるなど基本的な疑問が示された。清水は季節に偏りがなく、吉野宮の行きかえりに、帰りの記載がないときがある。宮の無いときが後半に多い、車駕で帰る時も数回ある、これらの違いは作文というよりは九州王朝史から忠実に移転したと考える方が合理的であると思っていた。九州倭国の天子、斉明(狂信の工事をした)の督戦に行った斉明を持統紀に移管した。日本書紀の斉明は近畿天皇家の皇極を改名して創作し、天智までのつなぎとした。男性か女性か不明だが、持統紀に移管したことから女性とみることもできる。サチヤマは帰還されたときには「筑紫の君」と地位が明示されている。斉明の葬式のときには山の上から鬼が見送っている。

C 読書 2つの使節団より

- 1) 斉明紀5年(659年)7月の項の「伊吉連博徳書」に2つの使者の不和が記されている。斉明の世に坂合部石布連、津守吉祥連等の2船、呉唐の路に奉使さる。29日に東京に到る。天子東京に在します。「日本国の天皇、平安にいますや否やと宣もう。11月1日に冬至の会があり、会の日天子と観ゆ。参列した諸蕃の中で倭の客最も勝れたり。(倭の客とは九州倭国の使いか、近畿日本国の使いか、両者を指すのか)
- 2) 後に出火の乱に由りて棄てて復検へられず。12月3日に韓智興の僱人西漢大麻呂枉げてわが客を讒む。客ら罪を唐朝に得て已に流罪に決む。前ちて韓智興を3千里の外へ流す。客の中に伊吉連博徳が居て弁明して罪を免れる。
- 3) 事了りて、勅使すらく「国家は来年海東の政あらむ。汝ら倭の客、東に帰ること許さない」遂に西京(長安)に閉じ込められて別々に幽閉して行き来することも出来なくさせる。困苦越年した。
- 4) 古田先生は日本書紀に韓智興を派遣したことが記録にないことから九州王朝の一員として A 韓智興、西漢大麻呂 G と B 伊吉連博徳 G の争いとみて A は九州倭国、B は近畿日本国として理解しようとしたが、高山氏は西漢大麻呂は河内の漢人で近畿日本国の人と考えるべきで、韓智興も九州倭国の人とも特定しがたい。近畿内部の2つの勢力争い(新羅派、百済派)が国際的背景をもっていたと解することもできると。

2022-4-22日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室

一5-9日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室